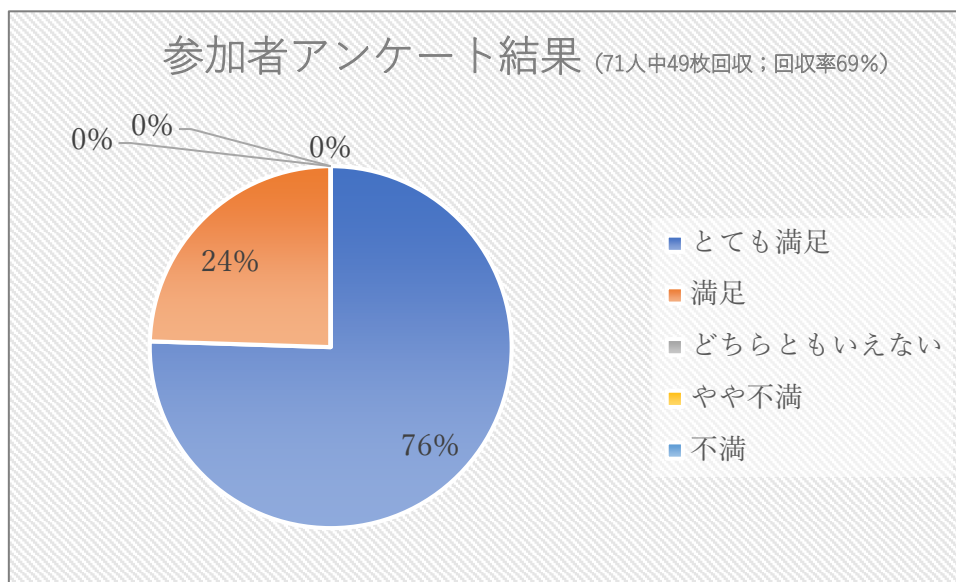


## シンポジウム参加者アンケートの結果

- 参加者アンケートを71枚配付したところ、49枚を回収させていただくことができました。
- 質問「本日の出版記念イベントについてどのようにお感じになりましたか。」について、5件法で聞いたところ、「とても満足」が37人、「満足」が12人で、それ以外はすべて0人でした（次の円グラフを参照）。



- 自由記述の抜粋を掲載します。

・特別講演の渡辺先生のお話や、小・中・高での教育（統計に関して）の新たな変革ののろしを上げる貴重な場に立ち会うことができ、光栄に思いました。

[30代 女性 エンジニア]

・データの活用で今後求められる生徒像や授業についてよくわかりました。このイベントで2年間の内容の充実が伝わりました。もっとお話が聞きたかったです。連携研究のチームの皆さん、2年間本当にお疲れ様でした。今後の発表も楽しみにしております。本も配布して頂き、ありがとうございました。

[30代 男性 教員]

・書籍について+渡辺先生の講演と充実した内容で勉強になりました。タイムテーブルがあるとよかったです。どのテーマでも、小中高の接続についてのお話が勉強になります。

[20代 男性 学生（4月から中学校教員）]

・取組の実態と雰囲気を知りたいと思っていたが、予想以上のクオリティの高さ、そして発表のわかりやすさに感動しました。今回の構成がとても良かったのですが、講演もよいが、小中高の取組をより詳しく聞きたいと思いました。

[30代 女性 教員]

・21世紀に最も求められている知的能力である“統計的問題解決力”を幼児期～青年期に至る一貫した視点のもとに、アイデアに満ちた授業実践をご紹介いただき、非常に勉強になりました。小～高までこうした授業に触れた子どもたちの育ちの姿について、ぜひ具体的に知りたいと思いました。ぜひ様々な教科やテーマで同様な教育実践（幼～高大）を取り上げてい

ただけなら、と思います。子どもの知的発達と授業との関係があざやかに感じられ、とても意義深いと思います。 [50代 女性 教員]

・3月に入り、資料の活用を教えていて、今後の流れ、改訂を踏まえ誤差のところ、力を入れてやってみました。しかし、今日のイベントで聞いたことを踏まえると、私は批判的思考や何のために教育しているのかが上手く捉えられていませんでした。もっと早く聞きたかったです・・・ (泣)。

[30代 男性 中学校教員]

・データ活用が必須の時代、最新のデータを活用した興味深い教育が実施されていることに感心すると同時に、自身の生活を見直すよい機会となりました。

[30代 女性 会社員]

・小中高で体系的な流れ（体系的に連携していこうとする方向性）がみられ、教育的に意義があるように（発達の視点からみても）みうけられた。いずれの校種でもこのようにわかりやすく教えられていらっしゃり、よかったです。大学にもつながっていくと思います。統計は大学において理系分野のみならず、社会科学（社会学、教育学、心理学）でも使われるので、このような体系的になされるとよいと思いました。連携教育と言うテーマ、よいと思いました。

[40代 女性 大学教員]

・挑戦的な取組でとてもよいと感じております。今後、渡辺先生はもちろんのこと、統計教育専門の先生方のご講演を拝聴できると幸いです。附属学校、特に小学校では事象を数理化することに焦点を当てているとのことですが、今回の統計指導や統計的問題解決と数学的モデリングの関連について、附属学校の知見を公開していただけたら幸いです。

[20代 男性 高校教員]